



えり

月朧鳥形山は低くなり
春塵やフランス人形老いにけり
如月や福耳隠すお亀かな

富子

○如月の光纏まといてスニーカー
真夜中に湯たんぽ蹴って春隣
蠟梅のあつという間に黒ずんで

千代

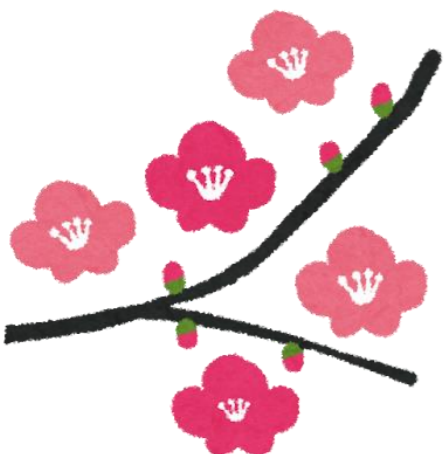
○ランナーのリズム春日を刻みゆく
自転車のハンドル春へ右左
二月もうむずむずたる鼻粘膜

郁子(岡)

○土佐水木蓄も夢もふくらんで
光る汗土佐路駆け抜けゴールイン
庭のすみ頭持ち上げ路のとう

紀美

ベランダにひしめく干し物冬日和
亡き母の春コート着一周忌
孫受験さくら咲いたと便りあり



迪子

節分祭祝詞のりことさらさら春もよう
春月や寝顔見つめて刻みけり
春風に藤と噴水あそぶ園その

利恵

青い空昨晚の風後梅五輪
幼き日思い出の中白木蓮
木瓜・椿・土佐水木・花粉症

文子

○春浅し引戸ガタガタ里帰り
乗りたしや春三日月の金の舟
ニヶ月の水鳥減りし鏡川

農子

○ニヶ月や風に転がる缶の音
坂登る避難訓練春浅し
日当たりて部屋の明るし日脚伸び

初江

○春なれやインナーカラーの小学生
○陽炎ひらひらいて古里行きのバスが来る
「如月」は校歌の出だし同窓会

富江

○診断書貧血と記し二月尽
春の土掘り返し干し今日一日ひと
航空便修学旅行春スキー

丞子

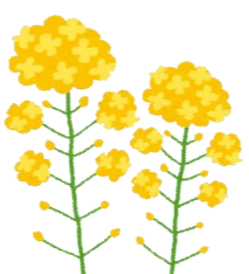
○風二月龍馬マラソンドドドドド
○百歳の母の眼差し春うらら
「ネコバス」の座席に沈む春愁はるうれひ

瑞枝

○春を呼ぶ舌のとろけるオムライス
春江の屋形船より新婦かな
ニヶ月の空へ屹立鬼瓦

郁子(土)

○打ち返す黒土匂ふ春の雨
○菜の花やどの風景も絵に変えて
悪夢してとび起る窓に春の月



味元 昭次 作品

柔らかく鴉の鳴きぬ春の霧
立春や山家一軒灯をともす
如月の八分音符の野に出でぬ

★次回市民句会

【開催日時】

令和六年三月二十七日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます